

袖ヶ浦福祉センター改善状況確認調査（概要）

【 養育園 】

1 改善状況で評価できる点

- (1) 権利擁護及び虐待防止の取組
 - ・「きらりと光るエピソード」の取組み等により、支援に対する前向きな意識の醸成に取り組んでいる。
 - ・グループミーティングは、虐待防止にとどまらず、業務の見直しや各班の連携など、広く支援の質の向上（権利擁護）について話し合える場となっている。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・日用品や衣類の購入時に利用者の好みで購入できる機会の増加、共有で観るDVDのレンタルを利用者が交代で出かけて選択する等、利用者のニーズを重視した取組みが増えている。
 - ・清掃の取組みを視覚化するなど、環境改善に向けて積極的に取り組む姿勢が定着しつつある。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
 - ・ソーシャルスキルトレーニングスーパーバイス研修等を継続的に実施し、様々な場面でトークンを活用したり、他の民間児童施設の見学研修を実施するなど、実践的な研修の実施に努めている。
- (4) 支援現場の透明性の確保
 - ・パーソナルサポーターの受入れ、第三者委員や特別支援学校の教員の巡回など、外部の目を入れるよう引き続き努めている。
 - ・夏祭りやふれあい祭り、クリスマス会のイベントに保護者の参加を呼びかけ、保護者と利用者・職員の交流の機会を増やすように努めている。
- (5) 特別な支援を必要とする利用者への支援
 - ・保護者が民間グループホームを見学するなどの取組みを進めている。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

- (1) 権利擁護及び虐待防止の取組
 - ・職員のモチベーションを高める取組みを今後も継続して行うこと。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・利用者の意思を汲み取り、それを踏まえた支援ができるように努めること。
 - ・利用者の自傷等が起きた場合は、その前に何があったのかを記録すること等により、その行動の原因を探り、利用者の思いやニーズの把握に努めること。
 - ・利用者の行動の数値化は原因を探る上で役立つ場合があるとともに、課題となる行動の減少（増加）等が数値として示されると、支援の質の向上等をわかりやすく示せるので、なるべく数値化に取り組むこと。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
 - ・勤務体制の工夫等により、職員がなるべく多くの研修に参加できるよう取り組むこと。
- (4) 地域生活移行
 - ・保護者、学校、市町村など、関係者の連携を深化させ、円滑に利用者が移行できるように努めること。
- (5) その他
 - ・給与体系の見直しについて必要な措置を取ること。

袖ヶ浦福祉センター改善措置進捗状況調査（概要）

【 更生園 】

1 改善状況で評価できる点

- (1) 権利擁護及び虐待防止の取組
 - ・権利擁護部会では、虐待防止部会としていた昨年度までと比べ、取り扱うテーマの範囲が虐待防止にとどまらず、利用者の生活全般に広がり、利用者の暮らしの質の向上に積極的に取り組んでいく姿勢が感じ取れる。
- (2) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・事故やヒヤリハットを始めとする重要な情報については、寮やグループを越えて施設全体として共有する体制が整いつつある。
 - ・寮の中の共有スペースに季節に合わせた装飾を施すなど、利用者の生活の質を向上させるためにはどうすべきかを考えた行動がとられている。
- (3) 職員の資質向上と人材育成
 - ・様々な研修を更生園の職員が継続的に受講している。研修内容を参考にして実際の支援を行い、それにより利用者の状態が改善するなど、研修受講がより良い支援に結び付いている。
 - ・今年度に入り、他の施設を多く見学するようになり、他施設の環境や支援の仕方を実際に目にすることにより、多くの気づきを得ている。それまで当然と考えて行っていた支援のやり方を振り返る良い機会になっていることがうかがえる。
- (4) 支援現場の透明性の確保
 - ・施設側から保護者に対し、園内の情報を伝えて来園を呼びかける働きかけを行ったり、来園時にも積極的に寮を案内したりするなど、保護者との距離を近づける努力を継続的に行っている。
 - ・苦情解決第三者委員や他施設職員の訪問、また、交換研修の実施等により、外部の風が入る環境になってきている。
- (5) 特別な支援を必要とする利用者への支援
 - ・「ダウン症と認知症」について、支援員3名が有志で調査研究をし、それを県内施設長会議で発表するなど、利用者の将来を見据えた積極的な取り組みを行っている。

2 今後も継続的に改善を必要とする点

- (1) 利用者の立場に立った福祉サービスの提供
 - ・個別支援計画の作成にあたって、人権尊重の観点から、保護者の意向だけでなく利用者の意思を汲み取り、それを踏まえた支援ができるように努めること。
 - ・外部の第三者の来園の際の意見のうち有用なものは、支援に活かすように努めること。
- (2) 職員の資質向上と人材育成
 - ・支援員同士で互いの支援の良い部分に目を向ける活動など、職員のモチベーションを高める取り組みについては、今後も継続して行うこと。
- (3) 支援現場の透明性の確保
 - ・外部の第三者の訪問により得られた意見を、実際の支援に活かすことができるよう努めること。
 - ・身体拘束の記録について、拘束の内容が分かるようにすること。
- (4) 特別な支援を必要とする利用者への支援
 - ・利用者の将来を見据えた取り組みについては、引き続き意欲的に取り組むこと。
- (5) その他
 - ・給与体系の見直しについて必要な措置を取ること。